

埼玉県山岳連盟
埼玉岳連報 第26号

発行者 田中 文男
発行所 埼玉岳連事務所 村岡正己方
〒340-0211
鷺宮町鷺宮団地1-28-407
編集人 岩井田 正昭
発行部数 1600部



『雲取山・初日の出』平成19年1月元旦

【巻頭言】

未来を明るくするために

県岳連理事長 村岡正己

昨年は、埼玉岳連の強力なスタッフを亡くす残念な出来事があり、ご家族、多くの関係者に衝撃が走りました。我々が行っている行為は危険との背中合わせということを感じております。あらためてご冥福をお祈りいたします。

さて、話は変わりますが2月17日、日本山岳協会の評議員総会に出席してまいりました。その中で、皆さんもご存知と思いますが山岳共済保険の改訂、公益法人としてのあり方など現在の社会事情を反映したものもあり「法の順守」が根底にあることを感じました。このような変化は、ある意味人を忘れての改革に繋がることが多く今回もその点が多少あるかと感じています。しかし、逆をいうと我々山岳関係団体の社会的感性（企業でいうCSR）が十分でないことも確か。難しいところでもあります。こんなことばかり考えていると自分たちが何を目指しているのか分からなくなるこの頃です。
*登れるか、登れないかの世界であったのに・・・

現在、スポーツは大きな意味をなすようになってきています。趣味として、ビールを飲みながらの観戦、そして誰でも評論家！そして、昨年の野球WBC、サッカーワールドカップ、オリンピックなど国家的事業のもの。逆に外交問題に発展し、国家間のトラブルにも。大きなビジネスの臭いをかますことも。まさに多様多彩。そんなスポーツは大好きであるが、山は今後どうなるのであろうかと考えると、多様多様化するジャンルに誰もがハッキリとした方向を示せないのが現実。再来年からボルダリングが国体競技で行われる。なくなる縦走を別の形で山岳トレイルとして残そうという動きもある。競技ばかり目立つが、埼玉発信で日本版ビオレドールの設置も提案された。課題山積である。グレイド的には、5・13以上か？まあ私自身は、あまり暗く考えない性格であるためにどうにかなるであろうと、「뽕송이가」"啊好 no problem." "まあいいか" "なんくるないさ" という感じです。それは、埼玉岳連の皆様が強いバックがあることと確信しております。尚2月3日〜4日に田中会長と関東山岳連盟連絡協議会に出席。その時に部屋のテレビで見た、モトクロスのXゲームにクライミングも味競技の部分ではこうありがたいネと感じたのでした。

「小澤直宏さんを偲ぶ会」

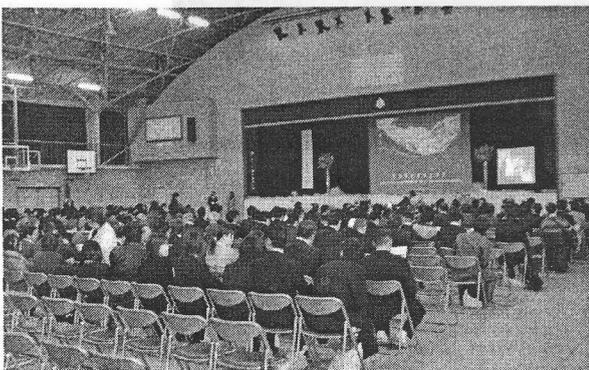
2006年(平成18年)夏、カラコルムヒマラヤのナンガパルバット峰(8,126m)において行方不明となりました小澤直宏さんを偲び、去る平成18年11月26日(日曜日)埼玉県立草加南高校におきまして「小澤直宏さんを偲ぶ会」(主催:小澤直宏さんを偲ぶ会実行委員会)が開催されました。

当日は御親族、御友人の方々をはじめ、山岳(県岳連・高体連)・埼玉大学・地域活動(瀬崎学童)の関係者の方々や、同僚の教職員の皆様、そしてかつての生徒も交えた教え子達と本当にたくさんの皆様にご参列を頂きました。参列者はおよそ700名を越える数となり、体育館に用意したイスも足りなくなるほどでした。これだけの人達を惹きつけていた小澤さんの魅力と存在の大きさを改めて感じさせられました。

式は瀬崎学童の方のギター伴奏による埼玉大学W.V.の皆様の合唱「蔵王の山男」から始まり、田中文男・県山岳連盟会長、鈴木治・草加南高校校長先生のご挨拶、ナンガパルバット遠征の経過報告(福田靖・登山隊隊長)と続き、関係の深かった皆様から映像も交えながら小澤さんの思い出を語っていただきました。(友人代表・田辺雅彦様。埼玉大学W.V.部代表・市川嘉一様、県岳連代表・天野賢一、高体連代表・町田伸一様、学校関係代表・柳田一穂様、教え子代表・沼絵理様、瀬崎学童代表・阿部龍作様)そして「遙かな友へ」の合唱、草加南高校和太鼓同好会より御親族へ千羽鶴の贈呈。御親族を代表して奥様から御礼の言葉と、偲ぶ会実行委員会を代表して森下健七郎・副会長よりご挨拶と式は進み、参列者全員の献花で最後のお別れをして閉式となりました。

一人一人の心のこもったたいへん良い式にすることができたことを、まずは偲ぶ会実行委員会の皆様をはじめ関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また会場を貸していただき、その準備にも大変御世話になりました草加南高校の教職員・全校生徒の皆様にもこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

最後になりましたがあらためて小澤さんのご冥福を祈るとともに、小澤さんの思い出を胸に刻んだ方々の御健勝と御清栄をお祈り申し上げます。
「小澤直宏さんを偲ぶ会実行委員会」実行委員 天野賢一



偲ぶ会・会場遠景



埼玉大WVの皆様他

平成十八年十一月二十六日(日)「小澤直宏さんを偲ぶ会」が草加南高校の体育館を会場に実施されました。小澤先生と関係の深い埼玉県山岳連盟を中心に埼玉

「小澤直宏さんを偲ぶ会」について
戸枝 進



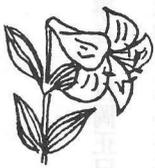
小澤 直宏先生
3年6組副担任(理科)
卓球部顧問

小澤直宏先生を偲ぶ会



第 92 号
埼玉県立草加南高校
PTA広報
編集発行 広報部
草加市柳島 66
TEL048-927-7671

玉大学、瀬崎学童、草加南高校の関係者が実行委員会を組織し、企画実施しました。運動部、和太鼓同好会、卒業生、先生方等沢山の人の協力により盛大に実施することができました。先生の多くの活躍で約六百名の方が参列されました。
合唱、黙祷の後、「思い出話」が年別にされました。学生時代は身体を徹底に鍛え友達と親交を深めた話。川口北、越ヶ谷草加西、草加南高校で教員として活躍した話。川口北でコンピュータの素人だった先生が草加西では専門家になっていった、好きなことを徹底的に努力し、その道の達人になってしまおう先生の凄さを語る話。又多くの生徒や人達が強い影響を受け、登山等の魅力に取り付かれた話。体育館の正面には小澤先生の歴史を語る写真が次々と映し出され、思い出が目に浮かぶ会でした。



小澤直宏さんの勤務されていた、草加南高校のPTA広報誌「蒼穹」より転載

第2回ボルダリングジャパンカップ報告

2007.01.15

第2回ボルダリングジャパンカップ 副実行委員長

村岡正巳 (埼玉県山岳連盟理事長)

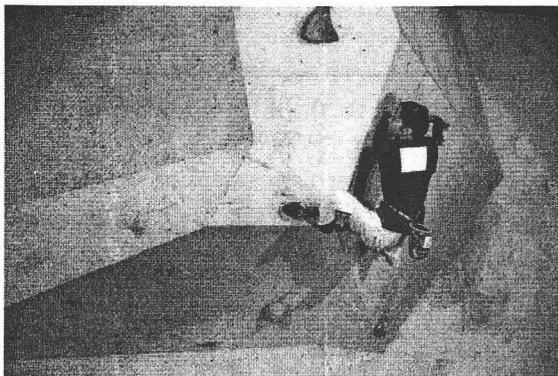
まず、最初に今大会に参加された選手の皆様、後援の埼玉県教育委員会、加須市、朝日新聞社さいたま総局、そして瀬田工業(株)、サントリー(株)様をはじめとする協賛各社に第2回ボルダリングジャパンカップを開催し終了出来た事を感謝いたします。この場を借りてお礼申し上げます。

今大会は競技内容を始め、色々なご意見を頂けた大会でありました。大会を大局的に見れば今年度の“日本のトップ選出”という目的を達成出来、成功裏に終わったものと感じています。しかし、男子予選の結果に関わって、大会終了後に起きたチーフルートセッターの辞任表明は、大会を運営したスタッフとして重く受け止めており、今後の取り組み方については多くの関係者とも相談し検討を進めております。

残念な事は、“セッターだけに苦情が集中し飯山氏が責任を取った形になった”事です。今回、男子の予選が非常に厳しい状況となりましたが、現在の選手のレベル向上、UIAA方式の競技内容に対して、セッターの色々な思惑が絡み合いこのような結果に繋がったのではないかと考えております。これらについては、色々な場所で議論されておりますのでここでは控えさせていただきます。ルートの出来・不出来はリード以上にボルダリング競技に出易く、その加減の難しさを強く感じております。また、大会は組織でもって運営している事を考えると、課題ルートの責任がセッターにあるにせよ、責任問題が担当者ベースで進んでしまった事は非常に残念に感じております。運営側としても今回のマネジメントには反省すべき点は多いと感じております。



ボルダリングジャパンカップは、昨年の神戸に引き続き今回で2回目と非常に歴史の浅い競技であります。但し、競技人口は10~20代を中心に増加し、リードクライミングを凌ぐ勢いを感じております。また、そのパフォーマンスの向上(以前の岩登りという概念を乗り越えたアクロバティックな世界)には目を見張るものがあります。ただし歴史が浅い分、競技方法や施設に課題を多く抱えているのも現状です。特に競技施設に関しては、これだけの大会(ジャパンカップレベル)を開催できる施設はありません。今回も昨年同様、「仮設の壁」を使用しての開催となりました。またボルダリング競技は、それに加えて「専用のマット」も必要となり、これらは“運営資金の7割を占める”程の大きな負担です。その負担を軽減する上でも、2008年の大分国体よりボルダリングが採用されますが、“早く専用施設が出来、利用出来るようになれば・・・”と感じる次第です。さて、競技内容については決勝で白熱した戦いが繰り広げられ、優勝は女子では野口啓代選手・男子は村岡達哉選手でした。



【女子】 女子の野口啓代選手は、昨年の神戸市の大会に引き続き貫禄の2連勝。予選、決勝ともにオール完登の素晴らしいパフォーマンスを魅せてくれました。

決勝の最初は、ダブルダイノからハリボテを乗り越えて行く課題。わりと快適にこなして行く他の選手に遅れを取った様子も見えましたが、第2課題のスローパー、ピンチが続く課題でヒールフックを上手く決めてクリア。3課題目も少ないアテンプトでクリア。そして、4課題目はセッターの遊び心(高度がある為、選手は恐い?)のある、マントル課題。これも1撃のクリア。その後は2位尾川智子、3位萩原亜咲と完登2で続くがその差はアテンプト1。そして4位高橋恵、5位榊原佑子、6位新名由美子、7位池田結花と続いた。

【男子】 男子決勝の1課題目は予想外のクラック。ジャミングに各選手が苦勞する。ボルダー系の選手には特に辛い課題となった。2課題目は、ピンチの続くハンク下から上に抜ける時の足ブラが見せ所。耐えた者が上に行ける。3課題目は、スローパー、ピンチがハリボテを含めて続く課題。4課題目はマントル。但し下部のリップまでのムーブが読めず全員敗退。このような課題を果敢に攻めた村岡と松島が共に完登2でアテンプト1つの差で村岡達哉が優勝。2位は安定したパフォーマンスを発揮する松島暁人、3位は右腕を痛めながらも完登を1つ決めた茂垣敬太、4位堀創、5位岡野寛、6位尾崎晃一、7位渡辺数馬と続いた。シャツを脱ぎ捨て上半身裸で気合いを入れて、課題に挑む男子の決勝は迫力満点であった。今回の開催地加須市は、2004年埼玉国体、2005年リードジャパンカップ、そして今回ボルダリングジャパンカップ、その合間には地元のクライミング大会、県体、関東クライミングと多くのクライミング競技を開催させて頂いております。

常設のクライミング壁がありますので、簡単に競技が開催出来ているかのように見えますが、市民体育館はクライミング専用施設ではありませんので他の競技種目との調整が必要で各競技団体のご理解と協力がなければ開催する事は出来ません。

今回、加須市開催に最終的に決定したのは初夏の頃。大会のイメージを描きそれを具現化する為に、スポンサー獲得活動、後援依頼、各団体への挨拶などに多くの時間を割かれました。その中で企業が求めるものに「大会の品格（ポスター、プログラム、式典・・・の内容）」「マスコミへの取り上げられ方」を強く感じました。裏方の話になりますが、以上述べた事は資金調達のためにも、今後重要な課題と言えます。

我々主管の埼玉岳連は、国体、リードのジャパンカップを経験しておりますが、多くのスポーツイベントの運営を参考にし、他のイベントに負けない大会と心掛けました。その中でも、クリスマスを意識した会場のデコ、スポンサーロゴの露出など試合会場内のエンターテイメント等検討を重ね、アイデアを振り絞りながら多くの方々のご協力を得て実現いたしました。デコレーションやブラッシングマンのサンタ衣装が、真剣な大会にそぐわない“とのご意見も頂きました。会場を盛り上げるつもりで実施しました。またスポンサー獲得の1つの要素として「イベント性の評価」もあります。今回のデータは、次回のジャパンカップ、来年のワールドカップそれぞれの企画の材料として活用する予定であります。



ただ悲しいかな、クライミング競技は一般の方々を注目させるには至っておりません。今回、会場に用意しましたプログラムは選手、スタッフ以外に500部を配付いたしました。年末の忙しい時期でしたが、ある程度の観客はあったと感じています。（リードジャパンカップでは延べ1000人程度の観客でした）今回は只、通りすがりに立ち寄ったのか、数人のトライを見て会場を去る方が多かった事も事実です。今回、後援の朝日新聞社さいたま総局のご好意で埼玉版に予選の内容が写真入りで掲載されました。しかし、ジャパンカップといえど新聞社に“今日のスポーツ欄”への掲載を依頼してもなかなか実現しないのが現状。



たった1~2行ですが、競技の理解性、盛り上がりなど色々な要素があると思いますが、“一般の方を引きつける”“マスコミに注目される”“スポンサーを獲得する”が競技の発展の要素として必要な事と考えています。

いずれにしても、今回見えた問題・課題をクリアしていく事が大切。現在のUIAAのルールにも改善の余地はあるでしょう。スポーツマーケティング、マネジメントを始めとする各プログラムを専門的に実践出来るプロフェッショナル・オーガニゼーションが必要です。選手、スタッフ、観客が共に満足出来る為に・・・以上

『第19回県民総合体育大会スポーツクライミング競技会報告』

クライミング委員長 大倉 至

昨年第18回大会は丁度高校の考查期間ということもあり高校生の参加がほとんど無く全体で36名参加だった。今回は高校の考查後に日程を組んだ事もあり高校生の参加が44名もあり全体で69名の参加になった。カテゴリーをミドル・ビギナー・ジュニア（中学生以下）・トップロープとした為経験1~2年の高校生が小学生と同じ部門で競う事になりどんな成績が出るのか楽しみでもあった。また、群馬県の高校生の参加が10名あり、今後近県の高校生も含め、多くの若手が参加する大会に成る予感を感じさせるものがあつた。また、予選は和やかに、初心者も参加し易いようにと考え、今大会では前の選手の登りを観察できる「フラッシング」にした。これについての評価が気になる場所であつたが、概ね良かったという評判を得たと感じている。

さて、トップロープでは身長118cmの尾上匠（7才）が高校生を抑え優勝。ミドル出場のお姉さんと一緒に表彰を受けた。ジュニアでは堤孔明（12才）がベテラン・高校生を抑え優勝。ジュニアは小学生の塚田遼河が余裕の優勝で上位をロッククラフト勢が独占。さすがミドルになるとフラッシングの効果？で予選2ルートの完登者が14名出てしまい、決勝ルートは難度の高い物にした。しかしここでも完登が3名。とうとう沼尻拓磨、関根平、尾上彩のスーパーファイナルにもつれ込んでしまった。それでも完登2名という大接戦だったがクライミングタイムで優勝沼尻拓磨、2位関根平、3位尾上彩と決着。

今大会はミドル出場の沼尻拓磨・関根平・尾上彩の成長、他部門でのジュニア勢の頑張り、ルートセッターが角田大樹・佐々木政明・門間希美の高校生トリオ、予選フラッシング、群馬県の高校生の参加等、新鮮なものであつた。

県内山岳会のオジサンクライマーも頑張ろう！！

（上位3位までの入賞者は左記の通り）

- トップロープ 1位：尾上 匠・2位：高崎駿夫・3位：板場涉吾
- ジュニア 1位：塚田遼河・2位：小島健人・3位：増山貴裕
- ビギナー 1位：堤孔明・2位：鈴木礼子・3位：荒井 聡
- ミドル 1位：沼尻拓磨・2位：関根 平・3位：尾上 彩

積雪期登山講習会・指導員研修会報告

(主催) 埼玉県山岳連盟

(主管) 埼玉県山岳連盟 指導委員会

(期日) 平成19年1月20日～22日(日) 天候：両日快晴

(会場) 那須岳周辺

(参加者)

C L 佐藤求 (講師)・S L 金子昭 (講師)

野村善弥 (県岳連指導委員長)

佐藤博 (主任講師) 日本山岳ガイド協会・上級登攀ガイド

小茂田利孝 (研修)・中西洋一 (講習) 他26名

(タイム)

1/20 佐藤求 宅6:00⇨東大宮6:35⇨岩槻C 6:35⇨那須C

7:56⇨ホテル着8:30⇨開校式10:30⇨実技講習⇨11:00⇨講習

11:30-16:00:座学16:40-17:40:食事(懇親会) 18:30-21:00

1/21 朝食:00⇨ホテル発⇨講習会場⇨8:00⇨講習8:30-13:00

⇨ホテルで閉校式13:30⇨ホテル発14:15⇨岩槻IC 16:17⇨

佐藤(求) 宅16:30

【講習内容】

1・服装知識【保温、行動性、素材、選び方、レイヤードについて講習する】①アンダーウェア(上下下着)②インナーウェア(上下中間着、手袋、靴下)③アウターウェア(上下ジャケット、スパッツ、オーバー手袋、帽子)

2・用具知識【名称、機能、目的、素材、携行、持ち方、選び方について講習する】①ピッケル(用途6つ)②アイゼン(8本以上ツアック)③ブーツ(保温性)④ロープ⑤ハーネス

⑥ザック(防湿、防凍対策)⑦スコップ⑧ツェルト

3・歩く基本【摩擦係数、靴底、雪面凹凸の利用について講習する】平坦雪上歩きの基本動作・原理

4・アイゼン無し雪上歩行【雪質、足の置き方、運び方、重心姿勢、歩幅、ピッケルとの連携について講習する】緩斜面

直登下、横断、斜め登下、方向転換

5・キックステップ【足の置き方・運び方、重心、姿勢、歩幅ピッケルとの連携について講習する】

直登下、横断、斜め登下、方向転換

6・アイゼン歩行【歩行基本(重心、姿勢、歩幅、フラットフイッティング、フロントポイント)について講習する】①着脱時期・場所方法・安全確認②直登下、横断、斜め登下、方向転換・姿勢

7・滑落停止【基本モデル応用・実際パターンについて講習す

る】(初期制動を含む)①ピッケルのない方法(摩擦、エッジングで止める)②ピッケルによる方法③ピッケルの持ち方・構え方④反転と制動動作体重のかけ方⑤停止からの立ち上がり⑥動作の迅速性

8・耐風姿勢【基本モデル応用・実際パターンについて講習する】①風の特性(方向・強度・場所)・行動限界②方法・姿勢軸足、顔向き・下降時・三角支点

9・ステップ・カットティング【意義・方法について講習する】

10・緊急避難【避難の実際について講習する】①状況判断と決定(タイミング)②なだれ・低体温症・風雪・ホワイトアウトの知識③避難場所・方法・用具の活用・リラックス

11・ロープ確保【基本モデルと3ピッチ程度の隔時登攀と制動確保を講習する】①確保の意義②用具(ハーネス・ロープ・制動器・スノーバー・ピッケル・バイル・アイゼン)③支点(足場・アンカー・支点設定)④方法(自己確保腰がらみ・スタンディングアックス・制動)

12・アンザイレン(コンテニアンスクライミング)【基本モデルとパーティを編成して講習する】①実施するタイミングとリスク②アンザイレンの方法(ロープの固定、遊動、フリクションヒッチ)と技術③コンテニアンからスタカットへの切り替え④滑落者の仮固定と自己脱出

(報告)

平成18年度の県岳連積雪期講習会・研修会は昨年と同じく茶臼岳中腹で行われた。今年も同日好天に恵まれ活気にみみぎる内容で行われた。何時もながらのことではあるが講習に身を入れすぎるせいか時間の経つのが早い。休憩もとらずに行っても、もう終わりかというほど充実している。これは佐藤主任講師の指導の下、野村指導委員長の連携とともに、各講師との三位一体の動きで無駄なく活気にみみぎる内容になったため。参加者は最新の技術を身につけようという意欲あるメンバーばかりであるから主任講師と講師は気を抜くことが出来ない。

一日目、終了後の座学で瀬藤遭難対策委員長よりハイキング登山で何かあった場合生き延びなくてはならない、そのためには非常装備(ツェルト、食器とガスセット、医薬品、地図磁石、ヘッドランプ)と非常食の持参は常日頃携帯する習慣をつけたほうが良いといわれた。

又懇親会では各会の紹介で盛り上がり、部屋に帰ってもまだまだデイスカッションが続いていた。二日目の特に今回感じた講習項目はスノーバーでの支点の取り方。滑落停止は実践向き

に腹ばいで頭から落ちる体制。仰向けで頭から落ちる体制。又スタンディング・アックス・スベレイで滑落者の仮固定と自己脱出からのシテム3/1引き上げ。上部からの滑落者の確保の仕方。この項目は主任指導員のデモンストレーションのあと誰一人見ているだけの人がなく全員積極的に行ってた。夏のクライミングと違い手袋をしての作業。片手で行うブルージックでの作業。なかなか思うように行かないが意欲的に行っている様子が良くわかる。初級クラスも今年若い人が多く少しでも多くも身につけようと前向きであった。

野村指導委員長が終了合図を出すともう終わりかとしがぶぶ終わりにしたパーティもいた。

終了式中田副会長より講習生、研修生に終了証の授与が行われた。最後に佐藤主任講師より今回の講習が行われた。そのなかでこの講習会で学んだことは持ち帰っても出来ることであるため、日ごろから思い出しながらも練習しむにつけてほしい、又将来は教える立場になるように精進してほしいとの言葉が身にしみて感じました。



支点の取り方を講習

あゆむ山の会・佐藤 求(文・写真共)

※本報告書はさいたま市岳連・あゆむ山の会・山行報告を転載 文中の敬称略・編集委員会

観音山縦走コースを歩いて

(第62回秋田国体 関東ブロック大会)

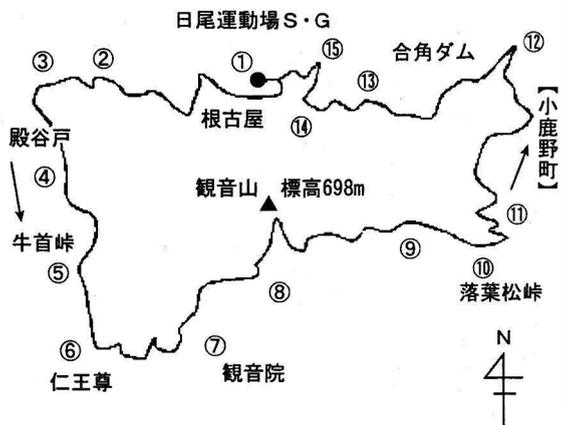
山岳競技会縦走コース)

加須クライミング・ピナ 土屋正昭

平成19年度に実施する第62回秋田国体の予選会『関東ブロック大会山岳協議会』(略称:関ブロ)は、我が埼玉が当番県です。クライミング競技は、来る7/28(土)に加須市で行われ、翌29日(日)は59埼玉国体(T2:少年男女)で使用した小鹿野町の観音山縦走競技コースが決戦の舞台となります。なお、縦走競技はご存知の通り、平成20年度には国体の山岳競技から姿を消します。文字通りの『ラストラン』です。そこで、初春に相応しい新たな気持ちで競技コースを歩いてみることに、普段は室内クライミング活動が中心の加須市岳連の5人(横田、井上、矢萩、細田、土屋)と、この企画に賛同頂いた長谷川国体委員長、岩井田広報委員長の2人に加わっていただき、総勢7人が1/7(日)午前9時30分に現地へ集合しました。その時に感じたことを、概念図に沿って書いてみます。大会は、日尾運動場をスタート&ゴールにするコースです。我々は、長谷川国体委員長より埼玉国体当時の説明を受け、倉尾ふるさと館の駐車場からゆつくり歩き始めました。勿論言うに及ばず、現地の写真撮影は、岩井田広報委員長にお任せです。

①② 坂を登って、直ぐに山道に入る。この辺は、道が狭くなるのと同時に笹があつて、小枝が若干煩わしい。杉林の中に、数は少なかつたが赤いプラスチック杭の頭が出ていたので、打ち込んでおく必要があると思う。競技当日は、団子状態で通過すると思われるため、トゲのある雑草も刈り取りたい。
②③ ここは下り坂でスピードが出ます。丸太の土留めです。しっかりしているのですが、心配はコースが大量の落道路脇にはかなり散乱していた。その後、片付いていけば結構なのだが、美観も考えると行政側の侵入が大会前になると大変嬉しい。
④⑤ 前述した赤杭より大きい白杭が、牛首峠間に数本ありました。頭を打ち込む必要があります。それと、この辺は左側が谷になっていて、トラロープ等で40〜50m位は囲わ

【コース順概念図】



なければ危ないでしょう。石段を登りきると直ぐに牛首峠の分岐です。
⑤⑥ 仁王尊まで、滑りやすい下りです。ここも落葉が多い。スピードが出る所です。大きな岩や、岩神の滝分岐付近には丸太の渡しがあり、選手の転倒が懸念されます。大きな倒木も数箇所あつたので、大会前には伐採しなければならぬと思えます。そして、トイレの屋根が見える地点には、一箇所陥没があり危険でした。

⑥⑦ 特にクライミングも兼ねる選手は、一本石造り日本一の仁王尊辺りで、悲鳴を上げることでしょう。ここから、296の石段が選手を待ち受け、一気に駆け上がると観音院です。
⑦⑧ この区間は観音山を目指す登りになりますが、杉林の中で木柵土留めが、10〜15m位の長さで2箇所崩壊していました。ここは行政にお願いしないと、費用面からも復旧は難しいだろう。山頂付近は、檜が混在する杉林で、花粉の飛散する時期は近付きたくない所だ。
⑧⑨ 大きな倒木がコース上に1箇所あり、吹き溜まりは大量の落葉で覆われています。下りのため速度が出るので、石車に乗らないように大きい石の除去や、もぐらの穴を埋める等の気配りが必要です。

⑨⑩ 松林を抜けると、直ぐに旧道へ出ます。59国体の看板も設置してある落葉松峠は、道幅は狭いが宅配便のトラックも通るらしい。分岐点でもあり、安全確保の面からも役員配置が必要でしょう。
⑩⑪ 新道まで殆ど舗装道です。そのため通りやすいのか、不心得者が、粗大ごみや危険物を不法投棄する。道路脇には、かなり散乱していた。その後、片付いていけば結構なのだが、美観も考えると行政側の侵入が大会前になると大変嬉しい。
⑪⑫ 広い舗装道の下りです。車が通らなければ、ランナーは無心で走れるところです。
⑫⑬ 合角ダム湖畔の舗装道で、多少のアップダウンがあります。一般車や釣客と交錯しないように、配慮しなければなりません。
⑬⑭ 左に折れ山道へ、最後の登りです。少々道端が崩れていますが、心配したら切りが無いので、雑草を刈り取れば概ねOKでしょう。
⑭⑮ コース整備は、特に問題ないと思えます。コースアウトに対して、やや注意が必要な程度です。
⑮⑯ 左前方からグラウンドが見えてくるため、斜めに駆け下りることが予想されます。スズランテープ等で、作業道を封鎖する工夫が必要と考えます。舗装道手前に牛舎が見えたら、ゴールはもう目前です。
このコースで感じたことは、全長の約1/3である仁王尊までが勝負の分かれ目というか、雌雄を決するポイントではないでしょうか。だとすれば、この区間はより重点を置いて、コース整備に当てる必要があると思えます。桜が咲き青葉が芽吹く頃には、大勢の大会関係者が鉈や鋸等を持って、コース整備に当たっていることでしょう。そして参加する選手の皆様は、勝敗に一喜一憂するだけではなく、関ブロ縦走競技の終焉に相応しい、歴史に残るような素晴らしい走りを見せてもらいたい。
我々は、3時間余り掛けて歩きました。なるべく素直に気付いたことを書いたつもりですが、この記述はあくまでも私見です。参加した各人の山岳経験によって、感じかたも違っていたと思います。なお、記載した事項は、関係機関に対し何ら強要するものではありませんが、ぜひ大会を成功させたいという、個人的願望から書いたものです。悪しからず。
(巻末に続く)

【常任理事会報告】

12月12日(火)午後7時30分、北本市文化センター
出席者：森下・村岡・天野・加藤・長谷川・大倉・塩谷・
山口(代理：三ツ木)・小茂田・岩井田

1・開会挨拶(森下副会長) 2・挨拶(村岡理事長)
3・報告

(1)「小澤直宏さんを偲ぶ会」11月26日(日)草加南高校
約700(岳連82)名参加、(天野副理事長)
(2)冬山遭難防止講習会12月9日(土)・10日(日)
県活動センター(瀬藤委員長)

12月9日・参加者26名・恵・高津・都岳連2名
の指導で医療講習会を行いました。人数が少なく、以前
に比べて効果的に行えました。

12月10日・参加者43名・午前中1/3引き上げシ
ステムの研修、負傷者搬送等スリング、ツェルト、ザツ
ク、雨具及びびいすれかの組み合わせ。午後、県警救助隊
飯田副隊長 講演「秩父山系での遭難状況」7月17日
秩父滝川での東京学芸大学の遭難救助ビデオ等。

4・協議
(1)ボルダリングジャパンカップ12月22日、23日
加須大会について(村岡理事長)

・参加者 男子70人、女子20人、計90人(日本人)
代表的な選手が参加。加須からも3名
パンフレット作成。スポンサーは、パンフレットの精度
も査定する。スタッフ名の記入。他のスポンサーの扱い
方等も配慮する。

・役員関係 ぎりぎりで行っているため、雑務の担当者
を募集。↓加藤・天野参加。みなさん見に来て下さい。
どんな施設になるのか、選手の登りぶりを!

(2)平成19年度関東ブロック大会7月27日、28日の計
画について(長谷川国体委員長)

・関東地区競技ブロック研修会2月3・4日の開催要項を
12月15日付で配布する。(関東各県)
・役員案 現在検討中。まだまだ役員を募集しています。
手伝ってくれる方、連絡下さい。前回の資料に追加↓熊谷
計良・岩崎・柳原(総務・宿泊等担当)

・埼玉県の第2回準備会及び第1回理事長会議(11月
29日)の報告。(村岡理事長)
・来年度の関プロ選手申し込み 6月20日に決定。
・8年前の県予算7900万より少ない見込み。4月に発表。
・岳連の役員等の報告↓昨年の例を見て。また、関プロ

口事務局は、大倉氏。実施要項作成の日程：1月19
日 各競技団体へ配布。↓3月1日 要項申込書の提出。
(3) 日山協自然保護委員会について(山口自然保護委員長)
・埼玉開催で内容を検討する。自然保護委員会幹部で原案
を作成し検討する。↓2月24日検討会(山口・浅見・
三ツ木・新井・柳原・岩崎)
※田中会長や理事長と連絡を密にする。

(4)その他
①関東地区山岳連盟連絡協議会について(加藤事務局長)
・日時：2月3日(土)午後2時〜4日朝食後、解散
・会場：ウエルサンピア栃木(鹿沼市)
・参加者：田中会長・村岡理事長
・協議題の提案↓関プロ関係の提案(要綱案・審判員の推薦
審判員会議 日程等)
・日本版ビオレドール賞(ゴールデン・アックス)の創設は?
②「ボルダリング競技施設・リード競技施設に係るアンケ
ート調査」(日出協国体委員会)について↓森下副会長
が解答する。

③理事新年会について日時：1月19日(金)午後7時〜省略
④高体連からの理事・ジュニア委員長推薦(小澤氏)↓鎌田
雅浩氏(上尾市高)↓了承。
⑤各部からの報告等

①指導委員会
積雪期登山講習会・指導員研修会1月20日(土)・21
日(日) 那須 1月9日締め切り
②国体委員会
12月21日 日山協国体常任委員会にていろいろ決定。
③クライミング委員会
第19回県民総合体育大会スポーツクライミング競技会
12月17日(日)加須。現在：成年3人、高校生66人、
一般の方、今からでも連絡下さい参加可能です。

④選手強化委員会
●19年度に向けての強化作戦
・成年女子・少年男子・少年女子ともに関プロ突破。
(成年女子は3県枠)
・課題は、縦走選手の育成。
・縦走選手は、4月22日の国体縦走・観音山のタイム
によって選定。決定は6月上旬。成年女子は、山田・
葛西・中村光 他の一騎打ち。少年男子は、町田(小
鹿野)・長谷川(熊谷) 他、多数の競合。少年女子は、

選手の発掘から(一番の課題です)
・成年男子は、縦走中心で木国体6位入賞を目指す。
・早田選手を中心として。
・クライミングは、3種別とも関プロ1位突破を目指す。
・後期予算は昨年度の15%減↓今後、講師を招聘して
強化練習会を開催。

⑤遭難対策委員会
・県警で毎年5月に遭難体験講習(名称?)を行っており
り来年は岳連で申し込みと考えております。
(今までは、埼玉芳山が参加していたようです。要項な
どは後日連絡いたします。(30名以内で無料)
・サム・スピリット購入について↓恵さんの講習でよく
使う副木(サム・スピリット)を纏めて個人輸入しよ
うかと考えております。カモシカスポーツで4000
円くらいですが、2400円以内で購入できそうです。
申込書などは後日連絡いたします。

⑥自然保護委員会
・尾瀬のキャンプが解禁されるという情報あり。
⑦海外登山委員会
□平成18年度海外登山報告会 12月2日(土)
東松山 18名参加
□12月5日(火)第20回 日山協海外女性懇談会
代々木 埼玉より6名参加
●2月17日・日山協・ステイブハウス講演会

⑧広報委員会
●次回発行予定 2月末・内容(国体報告、ボルダリン
グJIC、遭難講習会、指導部講習会、国体クライミン
グ他、各会での海外登山の報告等原稿待っています。
⑨事務局

■アイスクライミングジャパンカップ 2月17日・
18日 北海道下川町2月10日 締切(要連絡)
■冬山遭難防止について 富山県山岳遭難対策協議会よ
り文書(一部 別途資料)
■平成18年度冬山レスキュー講習会(積雪期) 日山協
1月17日・18日鳥取(資料配布済)
●会員証の発行について↓追加発行受け付けます。
(12月末日まで)ご連絡下さい。

5・閉会挨拶(森下副会長)
次回1月19日(金)午後7時〜理事新年会
2月13日(火)午後7時30分〜常任理事会
3月13日(火)午後7時30分〜理事会

5・閉会挨拶(森下副会長)
次回1月19日(金)午後7時〜理事新年会
2月13日(火)午後7時30分〜常任理事会
3月13日(火)午後7時30分〜理事会

《新しい山岳遭難・搜索保険制度固まる》

平成19年度より新制度へ移行

※編集注・平成19年1月15日発行【登山月報454号】より転載

独自共済の規制、山岳共済の疾病不対応問題など様々な観点から検討を加えてきた山岳共済について平成19年度より新しい山岳・遭難・搜索保険制度へ移行することになった。

■ 山岳共済会とは

新しい山岳遭難・搜索保険は、山岳共済会を契約者とする団体傷害保険であり、保険に加入するためには山岳共済会への加入が必須となる。山岳共済会は年会費1,000円（高校生及び18歳未満は500円）で主旨に賛同する登山者なら誰でも加入できる。山岳共済会員は日山協加盟団体の会員でなくとも、全てのタイプの保険にも加入できる。山岳共済会は山や自然が好きなお客の相互扶助と自立をめざす仲間の集まりで、安全登山をめざし、登山技術の向上や普及、遭難予防と対策など各種の事業を支援する。また、それらの行事に参加することができる。さらに各種見舞金制度の対象となり、どうしても保険でカバーできない登山中の疾病死亡時に各種見舞金が支払われる。

■ 山岳遭難・搜索保険

新しい山岳遭難・搜索保険は、日山協が団体契約すると日山協会員しか加入できなくなるため、山岳共済会が三井住友海上火災保険㈱と団体契約した団体傷害保険で、新しく月割りで加入できるようになった。次の2つのタイプがある。

（山岳登攀コース）

通常のハイキング、登山からロープ、アイゼン、ピッケルなどを使用した登はんまで幅広く補償されるもので、傷害保険としては家を出てから帰るまで日常生活の事故にも対応している。日常の事故にも対応するため山行計画書などの制約がなくなった。また、遭難の定義に「自力で下山できないこと」を追加し搜索・救助費用については疾病の時にも補償されるようになったが、死亡・後遺保険金は疾病時には補償されない。

（軽登山コース）

ロープ、アイゼン、ピッケルなどを使用しない登山、ハイキングから旅行、傷害保険としては家を出てから帰るまで日常生活の事故にも広く対応している。この保険は遭難搜索特約でなく、救護者費用特約のため急激かつ、外来の事故時には搜索・救助費用が支払われるが疾病時には補償されず、死亡・後遺保険金も疾病時には補償されない。

■ 各種見舞金について

疾病時には死亡・後遺保険金が補償されないため、山岳共済会より疾病死亡見舞金が10万円支払われる。また、疾病死亡で、搜索・救助費用が支払われなかった保険加入者に対し、疾病死亡救護見舞金10万円が支払われる。

■ 安全登山と組織強化

山行計画や登山届については山岳共済会員に対しPRを行う。また山岳共済会員の確実な把握により組織加入への働きかけを行うほか、各種行事への参加を働きかける。これらに対応するため別にホームページやメールニュースの強化を検討中である。また、制度が定着したら各都道府県岳連（協会）の安全登山、組織強化事業に対し共済事務費用還付金とは別に山岳共済会より支援を拡大する計画であり、新制度への理解と協力をお願いしたい。

日本山岳協会（共済委員長 西内 博）

平成19年度山岳・遭難保険 保険料表

2007/1/15現在

山岳遭難・搜索保険<山岳登攀コース>

保険金額	保険タイプ	S	B	C	D	E
	死亡・後遺		100万円	136万円	269万円	438万円
賠償	遭難搜索	100万円	200万円	250万円	350万円	500万円
	賠償	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保険料	死亡・後遺	610円	830円	1,640円	2,670円	6,710円
	遭難搜索	1,970円	3,950円	4,940円	6,910円	9,870円
	賠償	420円	420円	420円	420円	420円
	合計	3,000円	5,200円	7,000円	10,000円	17,000円

山岳遭難・搜索保険<軽登山コース>

保険金額	保険タイプ	I	II
	死亡・後遺		221万円
賠償	遭難搜索	300万円	300万円
	賠償	1億円	1億円
保険料	入院（1日）	2,000円	4,000円
	通院（1日）	-	1,700円
	死亡・後遺	770円	1,160円
	遭難搜索	90円	90円
賠償	賠償	420円	420円
	入院（1日）	720円	1,440円
	通院（1日）	-	1,890円
	合計	2,000円	5,000円

オプション<入院・通院保険>

保険金額	入院（1日）	3,300円
	通院（1日）	1,195円
賠償	-	-
保険料	入院（1日）	1,980円
	通院（1日）	2,020円
合計	計	4,000円

オプション<海外登山>

※現在、設定中ですので、しばらくお待ちください。

『日本山岳協会山岳共済会・団体傷害保険制度』のメリットについて

- ① 「日本山岳協会山岳共済会」の会員になれば、団体、個人を問わず団体傷害保険制度への加入が可能となりました。
※会員ご加入希望の方は、事前に日本山岳協会山岳共済事務センターにご相談下さい。
- ② 雪山などの山岳登攀に対応できる遭難捜索費用担保特約が付帯された「山岳登攀コース」、常時ピッケルやアイゼン、ザイル等を使用しないで登れる軽登山（人口壁によるスポーツクライミングも対象）に対応できる「軽登山コース」（救援者費用特約が付帯されています）を新設し、会員の方ならどのタイプでもご加入できる制度と致しました。（但し、タイプの複数のセットのお申込はできません。S・B・C・D・E（入院通院オプションは除く、I型、II型のうちどれか一つしか選択できません。）③遭難捜索費用保険金・（山岳登攀コース）、救援者費用保険金（軽登山コース）の解釈を明確にし、わかりやすく解説いたしました。（それぞれのコースに後述しております。）特に、遭難捜索費用保険金では、遭難事故とみなせれば、疾病が原因でも捜索費用保険金のお支払対象となります。（但し、救援者費用は急激かつ偶然な外来の事故による費用ですので、疾病が原因となる捜索費用は補償の対象外となります。）
1. 団体傷害保険の特色
- ① 補償内容の充実
- 遭難捜索費用が付いた山岳登攀コースと救援者費用等担保特約が付いた軽登山コースを選択できます。特に山岳登攀コースには、遭難捜索救助費用が担保される点で、従来の生命保険等に較べて画期的な団体保険制度であるといえます。
 - 遭難捜索費用の限度額も充実しています。→最高500万円までの補償ができます。
 - 入院・通院の場合でも安心です。傷害によって、入院した場合にも、実日数に対して支払われる入院・通院補償をオプションにてセットすることにより対応することができます。
 - 第三者への賠償事故の補償があると安心です。第三者に与えた損害賠償が補填できる個人賠償責任がセットできます。
 - 本団体保険制度は、山行中のみならず、日常生活での怪我も補償の対象となります。
- ② 保険料が割安です。
- 日本山岳協会山岳共済会が団体として契約するため、保険料は個々に契約される場合に較べて、非常に割安になっています。
- ③ 日本山岳協会山岳共済会が実施する保険制度です。
- 日本山岳協会山岳共済会が三井住友海上火災保険㈱に付保している団体傷害保険制度です。
 - ※ 全国各地のホテル・宿泊施設・レストラン・レンタカー等の割引が受けられる。

共済会の特典：会員の皆様への安全情報サービスをめざします

山小屋の割引（共済会員証を事前にご提示ください。宿泊料が対象です）

《奥秩父雲取小屋、信州・真田/あずまや高原ホテル、富士山/東洋館、谷川岳/肩の小屋、奥秩父/甲武信小屋、10%引き》、《丹沢山/みやま山荘、那須岳/おおかた 1,000円引き》※共済会では、割引に参加希望の山小屋を募集しております。ご紹介よろしくお願ひします。

- 1 疾病死亡見舞金：共済会員の方が山岳スポーツ活動中に突然死や疾病で死亡した場合、共済会よりご家族の方へ疾病死亡見舞金10万円を支払います。※山岳スポーツ活動とは登山のほかスキー、ボルダリング、スノーシューなども含みます。
- 2 疾病死亡救援見舞金：山岳遭難・捜索保険<軽登山コース>に加入の方で山岳スポーツ中に突然死や疾病で死亡した場合、共済会よりご家族の方へ疾病死亡救援見舞金10万円を支払います。
- 3 見舞金の請求について：対象となる山岳スポーツ活動をしていたことを証明する書類および死亡を証明する書類が必要です。山岳活動をしていたことを証明する書類は公的機関の事故証明または所属団体の責任者あるいはパーティの責任者の現認(証明)など。死亡を証明する書類は死亡診断書または死体検案書の写しなどが必要です。見舞金の支払いについてのご相談は山岳共済事務センターをお願いします。

安全登山情報のご提供

- 1 各種安全登山講習への参加：日本山岳協会や各都道府県山岳連盟(協会)などが開催する安全登山などの講習会に参加できます。講習会のご案内はJMAのホームページ、メールニュースから行う予定です。
- 2 安全のしおりや熱中症のしおりなど刊行物のご優待：安全のしおりや熱中症のしおりなど順次刊行し、お知らせします。熱中症のしおりは日本山岳協会の医科学委員会がすでに執筆完了しており、刊行企画中です。送料のみの特別価格でお送りします。
- 3 メールニュースのお届け：入会の申込み時、メールアドレスを登録し、メールニュースのお届けを希望された会員の方にJMAメールニュースをお届けします。講習会などの行事予定やJMAの動きを配信する予定です。

注意及び報告について 省 略

募集締め切りは平成19年3月25日 日本山岳協会山岳共済事務センター 10:00~17:00(月~金)

TEL03-5958-3396/FAX03-5958-3397・Eメールアドレス《sangakukyousai@mbd.con.ne.jp》

※詳細は上記発行の『山岳遭難・捜索保険のご案内』を参照ください。 県山連 事務局



崩落した山岳コース



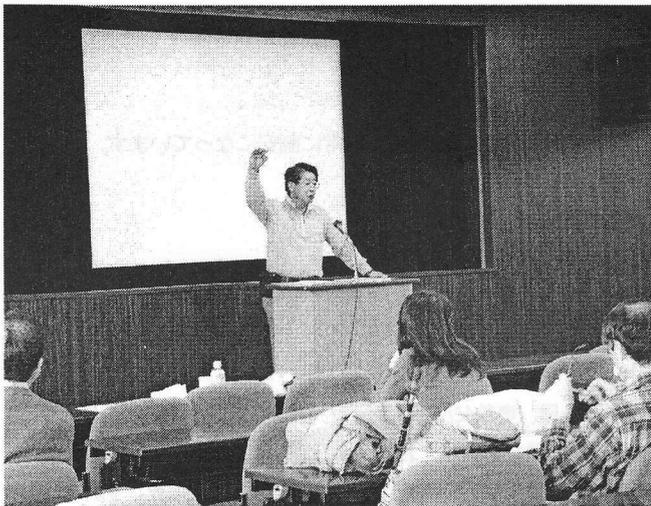
観音山コース調査に参加した皆さん

【遭難対策委員会】

・平成18年12月9日・10日 県・県民活動センター
 9日：山岳における救急医療講習・講師 恵 秀彦氏
 10日：レスキュー技術講習会・講師 瀬藤遭難対策委員長
 ・ブドウ沢遭難事故・講演・県警山岳救助隊 飯田副隊長
 昨年に引き続き恒例となった、遭難対策委員会主催の遭難防
 止講習会および講演会が開催された。

初日は一般救急医療講習、シュミレーションを含む救急医療を
 中心に行った。
 二日目はレスキュー技術を主体に搬送方法などを体得した。
 またロープを積極的に使用して1/3引き上げなど数チームに
 分かれて実技講習を行った。
 午後から県警・飯田副隊長の講演が行われ、ブドウ沢出合付近
 でおきた遭難事故(18.7.10)の搬出実例がビデオで紹介された
 非常に困難な搬出であったのが印象的だった。

広報委員会 岩井田 正昭



プロジェクターを使って講演する飯田副隊長

【事務局連絡】

※平成18年度・埼玉県体育賞に福田靖氏受賞
 福田靖・前理事長(たらっぺ山の会)が平成18年度埼玉県体育
 賞を受賞しました。 受賞おめでとうございました。

※ 新刊発行案内

『千島列島の山を目指して―知床、千島、カムチャツカ紀行―』
 大谷和男著 牧歌舎：刊20000円

上海に赴任中の深谷山岳会々員の大谷氏が、千島列島遠征の本
 を出版しました。深谷山岳会では、初めての出版です。内容は、
 その殆どが「深谷山岳会創立30周年記念誌」「深谷山岳会創立
 40周年記念誌」に集録されたものですが、大谷氏がライフワー
 クとしている「千島列島」「北方四島」の遠征の度に纏められた
 報告書を時系列にして、一冊に纏められたものです。
 記念誌では全ての内容が集録できなかったのですが、今回は付録
 DVDも納められ写真等も豊富に入っております。まだまだ訪れ
 るもの少ない地域の記録です。是非一度ご覧下さい。

加藤富之@深谷山岳会

目次等

- 第1部：知床半島
 - 1・夏の稜線、2・知床岬、3・知床の強風・熊、
 - 4・残雪期の硫黄山・遠音別岳
 - 第2部：カムチャツカの山
 - 1・クリュチエフスカヤ・1994年8/12-27
 - 2・カリーミン
 - 第3部：千島列島の山
 - 1・国後島「国後島渡航記」・1996年8/8-282.
 - 2・択捉島「択捉島探検記」・1997年8/1-15
 - 3・北千島・阿頼度島「阿頼度山登頂記」2004年8/8-19
- ※入手ご希望の方は左記のE-MAILへ
 広報：岩井田 《 miwaida@mua.biglobe.ne.jp 》又
 事務局：加藤 《 bunta@ps.ksky.ne.jp 》へご連絡ください。

【編集後書】

昨年末の谷川岳、元旦の雲取山、1月の奥秩父・と山に向かう
 が今年には異常なほど雪がない、暖冬というだけではすまない異常
 気象だ。先週の東秩父山麓ではふきのとうが芽吹いていたし、山
 桜の芽もなんとなくふっくらとしてきた。毎年山麓の春を見るた
 め訪れているが、今年は一気に開花しそうな雰囲気。短い冬、
 短い春、夏がおもいやられる。